



木育に使う木のおもちゃや参考書籍



「水の積み木」のプログラム体験

木を通じて人と森が深く関わっていることを認識し、暮らしの中に取り入れる「木育」を学び、実践しました。



受講生のプログラム発表の様子

1月19日(土)に三重県林業研究所内にある交流館において「木育インストラクター養成講座」を開催しました。

この講座は木育インストラクターとして森のせんに登録し、木育活動を広めたい方などを対象に開催しています。

講師には、認定NPO法人芸術と遊び創造協会の長谷川彰氏に来ていただき、木と森林文化や歴史、日本のさまざまな樹について学んだり、木にふれ、木に親しみ、木の特徴や良さについて実際に創作や水の積み木で遊んで楽しみながら理解しました。

午後にはグループになって、木育プログラム作りをして発表しました。発表後は質問を受けたり、講師から良かった点や木育をするうえでの注意点などの講評をそれぞれいただきました。

「木育インストラクター養成講座」 開催しました！

TOPICS 2 /



MORI DUKURI NEWS 2019.3

拡大号

TOPICS /

森のせんせいスキルアップ講座「LEAF ローカル インストラクター編」を開催しました！



受講生がプログラムを作成して実践している様子



北ヨーロッパで開発された国際的な森林環境プログラムを学び、その考え方や手法を子どもたちへの教育プログラムとして活かせるように実践しました。



初日の座学の様子



初日に講師たちの実践例を体験している様子



2日目の実践の様子

2月2日(土)～2月3日(日)の2日間に渡って吉田本家山林部及び語らいの里嘶野にて講座を開催しました。

この講座は、持続可能な社会を成立させる三本柱(環境・社会・経済)をベースに森林がもつ4つの側面(生態学的・文化的・社会的・経済的役割)についてバランスよく学ぶことで、子どもたちが生きる今の環境や持続可能な未来のために、子どもたちが主体的により良い選択の出来る人に育つための森林環境教育プログラムとして、森のせんせいや学校教育関係者、林業家などを対象に開催しています。

講師には、FEE Japan 代表理事の伊藤正佑子さん、LEAF ナショナルインストラクターの吉田正木さん初め、2名のローカルインストラクターの方々に来ていただきました。

初日には、FEE(国際環境教育基金)やLEAF(Learning About Forests)の成り立ちや理念、日本の林業、プログラム実施の事例についてなどの座学と、講師の方々による実践で具体的に示していただきました。

2日目は、受講者が各自プログラムを立てて実践し、それを講師陣が講評して今後の活動に活かせるように指導していただきました。他の森林環境教育プログラムとの違いをどう表すか悩む姿もありましたが、新たな視点を持てたようで充実の2日間になりました。

「みえ子ども森の学びサミット」でフォトコンテスト表彰式を開催！「森の学校」も同時開催！

三重県立みえこどもの城で昨年12月1日(土)に開催された「みえ子ども森の学びサミット」において「第5回みえの森フォトコンテスト」の入賞者への表彰状が授与されました。出席いただいた5名の方に、三重県農林水産部の前田次長から表彰状が手渡されました。

また、同会場にて「森の学校」も4つ同時開催しました。森林について学んだ小学校などの取組発表もあり、2,150人のご来場がありました。

第5回みえの森フォトコンテスト 最優秀賞・優秀作品ギャラリー

小学生以下の部 最優秀賞



「ニョロニョロ」
伊勢市立厚生小学校5年 城あかりさん

中学生以上の部 最優秀賞



「大工」
三重県立品学園高等学校3年 浮田竜成さん

中学生以上の部 優秀賞



「森の親子」
セントヨゼフ女子学園高等学校1年 杉本倫さん 津市立西郊中学校2年 森川琉伍さん



「山を射抜く水柱」



「みえないもの」
皇学館高等学校1年 堀出萌絵さん

小学生以下の部 優秀賞



「大きい木」
伊賀市立成和西小学校5年 井野歩華さん



「いい場所見つけた」
津市立倭小学校3年 島田旬さん



「みよ〜ん」
亀山市立亀山東小学校4年 原慈さん



発行：三重県 編集：みえ森づくりサポートセンター

TEL:059-261-1223 FAX:059-261-4153 mail:miemori@zc.ztv.ne.jp

web <http://www.zc.ztv.ne.jp/miemori> facebook <https://www.facebook.com/miemoridukuri/>

— pick up —

森づくり活動団体 「森林施業 認定 NPO 法人 もり 森林の風」 (四日市市)



平成 17 (2005) 年 4 月 1 日に NPO 設立、9 月 12 日 NPO 法人認可。平成 25 年 9 月に認定 NPO 法人取得。現在約 35 人の会員が活動中。会員は 40 代～70 代までで働き盛りの世代も多い。四日市市を中心に、桑名、亀山、松阪、名古屋市からも参加。その他にも賛助会員や寄付会員が大勢います。

活動内容は、①人工林総合施業 ②里山の再生 ③竹林の整備 ④森林施業基礎研修会 ⑤森林活動体験研修会 ⑥間伐材の有効利用 ⑦管理事業の 7 つに加え、林福連携も始めています。

活動場所も広範囲で、北勢～伊賀地域まで、現在 15 か所の森を整備・管理中。企業の森で活動する有償ボランティアグループです。現在の会長は瀧口邦夫氏。

森づくり活動団体には平成 27 年 2 月 24 日登録。森のせんせいとしても平成 25 年 7 月から活躍中。森林環境教育や体験活動にも大きく関わっています。

○設立のきっかけ

【自然環境の悪化を改善】

放置山林や竹林、田畑の荒廃、地球温暖化による異常気象や自然災害の多発を改善したい【数十年先を見越した「森作り」と人材育成をめざしながらの里山や竹林の再生】

子ども達が里山で自由に遊びまわり、幼い頃から自然環境の大切さを認識出来るように、家族や親子が自然と親しみ、憩いの場となる森作りのお手伝いをしたい

【多くのボランティアグループの指標になるグループを目指す】

活動方針を明確にし、短期・中期・長期の計画をもってメリハリのある活動を進めたい

○活動のモットー・・・豊かな森林を未来にのこそう

- ・安全作業を優先しマナーとルールを守る「水源の森保全活動」が基本
- ・基本を忠実に守り、実践林業、森林環境教育等を進める
- ・活動日は毎週火・木・土・日の 8:30 ～ 15:00
- ・活動中（自宅まで）の飲酒・遅刻は厳禁。
- ・森林に入るときには必ずヘルメットを着用。

安全作業と信頼関係を大切に活動は、企業からの信頼も厚く、三重県初の「企業の森」から整備・管理を任せ、今では 11 の「企業の森」と契約・提携しています。他にも、森林組合の技術指導や NPO の 2 社と提携し活動、寄付も 2 社から受けています。

○森林の風メンバーについて

現在の会員の中にはさまざまなスペシャリストがいます。土壌分析、樹木成分の分析や抽出の研究をされてきた人、木彫りや木工が得意な人、経営管理や資金運用が得意な人、測量士など。自然とさまざまな分野に長けた人々が集い、活動を充実したものに盛り上げ、各々のキャリアを活かせる場となっています。

「企業の森」11 か所についても、22 人の会員がそれぞれに森を担当し、企業の思い描く森林のイメージに沿いながらも、ミドリシジミの生息している森ではアカガシの森を作るアドバイスをしたりして環境保全に配慮しながら、企画運営（経理・広報・研修・整備・育樹・環境教育・薪）、動植物や土壌調査、フィールド施業などを分担しています。みんなが共に学び考え教え、汗をかく事を基本にして会の運営をしています。



○森林のことを考え学ぶ拠点「みえぎん・まなびのもり」(菟野町千草の企業の森の敷地内)

- ・10 年以上前から森林の風の活動拠点として使用してきた場所
- ・2017 年 8 月に知識アップコーナーとしてリニューアル
- ・図書貸し出しや、林災防の林業 DVD の視聴が可能で、「この木なんの木」コーナーには 100 種類の木の見本板が展示されており、森林勉強コーナーが充実しました。
- ・会員でなくても自由に入場と閲覧可能
- ・気軽に訪れ、森林について考え、学ぶ場所に現在生まれ変わろうとしています。活動に関心のある方はいつでも話をしにきてくださいとのこと。

『もりのかぜだ・よ・り』

毎年 4 回会員に向けて発行している情報紙。活動の報告やこれからの予定、講座・講習会の案内や新入会員の紹介、里山の四方山話、トピックスなどさまざま。

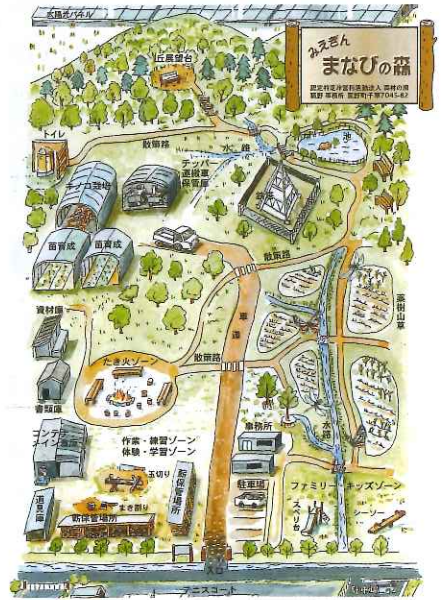
冊子『まちのきこり人』(※1)

平成 22 年に 2000 部作成。現在第 5 版まで印刷。販売はしていませんが、公共機関にも配布中。

2019 年 3 月 2 日に三重県総合博物館で開催される「自然と人間との共生フェスタ in 三重」にも出展する予定。

水源の森プログラム

まちのきこり人



※1『まちのきこり人』…チェーンソーや刈払い機の使い方がわかって、いざ活動するときに先ず必要なのは、森林には持ち主や境界があることなど、森林への入り方のマナーなどです。この冊子では先ずそのことにふれています。

○主な活動（実践林業、講座・講習会、森林保全活動）

《実践林業》

- ①荒廃した人工林（スギ・ヒノキ林）の森林再生。現在の契約山林は、約 60ha。「企業の森」、三重県民の森、南部丘陵公園、亀山市森林教室、菟野富士周辺など市町や NPO、ボランティア団体が管理している森林を計画的に管理。
- ②地域活性化につながる活動の推進（荒廃した里山や森の整備）伐採した樹木はチップロードや休憩エリアでの活用、薪や木工品として活用。
- ③植樹活動・地域苗木の育成（鹿などの食害などで裸地化した森林の再生）年間 100 本程度の植樹活動と、植樹用の苗木を実生や挿し木から育てています。ポットに竹林整備で出た竹も活用。
- ④薪の販売
作業で出た間伐材は極力搬出し、木工や学校資材、学校林の整備などに利用するとともに活動資金の調達として、薪の販売も実施しています。

人工林での取組
間伐中心で、境界確定、簡易測量、間伐材マーキング、樹木調査、枝打ち、林内整備、作業歩道整備、間伐材の有効利用など



現在
2019 年度受講生
募集中！



《森林整備のための講座、レベルアップ講習会の開講》

- ①まちのきこり人育成講座（森林再生の育成事業。2006 年～。）
森林ボランティアより一歩上の活動をするのが「まちのきこり人」。通年 8 日間。受講修了者にはチェーンソー等安全講習会修了書を発行。現在 2019 年度受講生募集中。
- ②まちのきこり人レベルアップ講習会（先人に学ぶレベルアップ講習会）
基礎編の講座修了者と森林の風メンバーが共に学び考える講習会。県内外の選りすぐりのインストラクター、学者、トレーナー、林業家などから対話方法や体のメンテナンスから森林のデザインまで多彩な技術や知識を学びます。

《森林保全活動》

- ①森林環境教育体験活動
小学校や子ども達、企業や地域の方々との協働で、森林環境教育体験活動を行っています。小グループで細やかな対応をします。
- ②企業とタイアップした活動を実施（現在 15 の企業の森と提携中。）
大人達が森林整備をした後、子どもや家族を対象とした森林体験のイベントを実施。年間 2,000 人以上の参加があります。直近には多度山にある「企業の森」で、3 月 16 日に大人達が整備とイベントの準備をし、3 月 23 日に桑名の小学生達がクイズラリーなどをしながら森林体験を楽しむ予定です。
森林の風の活動資金の殆どは企業の森との提携で成り立っています。森林再生に協働で取り組む企業を募集中です。
- ③調査研究活動
12m×12m の獣害対策ネットの中に「カブトムシの森」「飛来種子の森」「生物多様性の森」など多彩な森林再生を計画し、地球温暖化、酸性雨、獣害などを記録してデータ化する活動をしています。



○森林環境保全におけるチャレンジ！

- ・ドローンによる森林植生の調査
上空からパッチディフェンスを撮影し、植生調査を行うもので、今年度は伊賀市内の「企業の森」で 27 のパッチディフェンスを設置して開始。今後は北勢地域や御在所岳頂上の調査を実施予定。
- ・土壌調査
菟野富士周辺のフィールドや「企業の森」の土壌を採取して、パーハーや電気伝導率、土壌層や土壌構造、水分状態等の分析調査を実施。今後は調査データを総合的に解析して土壌の特徴を解析。
- ・精油の抽出
今年度の 8 月に開催した「森林の風、祭り」において、初めてさわやかな香りのヒノキオイルの抽出に成功。今後はイベント等でいろんな樹種にチャレンジ。
- ・チェーンソー製材
今年度のレベルアップ講習会でこの技術を学び、会得しました。夏の祭りでは立派なケヤキの板製材に成功。今後は間伐材を活用して製材し、テーブルなどの制作にチャレンジ。



○これからの課題

- ・御在所岳の植樹活動（「GOGO 植樹」の達成。）
「鈴鹿国定公園生態系維持回復事業」の認定を受け、ヤシオ類などの御在所岳自生の希少種も実生から苗木を育て、森林保全活動として植樹しています。以前から進めている「GOGO 植樹（5,500 本の植樹活動）」で現在 2,500 本まで植樹しました。
しかしながら、鹿の食害やヤシオの植生場所が山頂という事もあり、なかなか育たないのが現状。苗木の数も追いつかないので、再来年までには何とかしたいといった状況。
- ・15 周年記念イベント
2019 年度は団体結成 15 周年目になるので、何か大きなイベントを実施して活動を盛り上げることを計画中。
- ・整備中に散策に来られる一般者について
立ち入り禁止にしている森林内なので、作業中に一般の森林散策者が入ってくることがありその対処方法を検討中。名案も募集中。「企業の森」では、看板設置の対応予定。

